

## 車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：岸町自治会

開催場所：入中川原公民館

開催日時：平成 28 年 8 月 16 日（火）19 時 00 分～20 時 40 分

参加者：自治会側【地域住民の方 39 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、杉村地域生活部長、横田川健康福祉部長、北川産業観光部長、畑教育部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、  
駒形戦略推進課係長、田原六合公民館長】

### 内 容

#### ① 松野自治会長あいさつ

- ・当町は、「安心・安全、住み良いまちづくり」を推進している。
- ・この日（車座トーク）のために 2 ヶ月も前から、意見集約を行った。この町をより良い町にするために、たくさんの意見が出された。
- ・市長の市政報告を聞いて、当町が市内においてどの辺の位置づけにあるのか、また意見に対する回答を組長の皆さんは、組に持ち帰ってお知らせをしてほしい。

#### ② 市長からの市政報告

##### ■はじめに

- ・この車座トークは、68 の全部の自治会をまわるということで、最初の 2 年間は「語る会」ということで呼んでいただいたところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部限なくまわるという事は難しかった。
- ・また、今年、来年の 2 年をかけて次の総合計画の策定の作業を行っているが、各地域の課題や特色、さらにはどのような取り組みをしているのかを、目で耳で肌で確認して、それを市政に反映したいということでもまっている。

##### ■岸町の人口、世帯について

- ・岸町の 7 月 31 日現在の世帯数は 971 世帯、人口は 2,711 人で、高齢者人口は 636 人、高齢化率は 23.5%となっている。市の平均が 29.4%なので、比較的若い方が多い。15 歳以下の人口は 438 人で人口に占める割合は 16.2%となっている。市の平均は 13.8%なので子どもの数が多い賑わいのある地域であると思う。先ほど自治会長さんから「安心・安全、住み良いまちづくり」を推進しているというお言葉を聞いて、互助の仕組み、みんなで助け合う、地域を良くしていくという取り組みがあるのではないかと思っている。

## ■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

- ・島田が今、一番課題だとしていることは人口減少。少子高齢化に歯止めがかからない状況は待たなしの対策が求められている。
- ・2025年には団塊の世代が全て後期高齢者になり、高齢化も2025年から30年にかけて高齢化率がピークを迎えるといわれている中で、2030年には人口が激減していくと予測されている。
- ・子どもの数が少なくなっているということは、若者の晩婚化、未婚化が進んでいることに加え、子どもを地域で温かく育て上げるということも少なくなっている時代。
- ・少子高齢化に伴い、働く人の人口も減るということになり、税収も減ることになる。2060年頃には全人口の半分くらいしか働く人がいなくなるという統計も出ている。今日お見えになっている皆さんが20代、30代の頃は活気があって、今日よりも明日は必ず良くなるという時代であって、土地の値段も上がって、給料も上がって、借金をして公共施設を造っても、税収が入ってくるので投資ができた。しかし、税収も余り入ってこない、医療、介護、福祉、子育てにお金がかかる、30年、40年前とはまるで裏側から見たような時代になってきており、これは島田市においても大きな課題となっている。
- ・森昌也氏が昭和28年に市長になられ、「市民の手による市民のための市政をつくります。」とおっしゃっている。20年間、島田市政を行い、市民会館、市役所を建設し、大きな会社も誘致をして、町を大きく発展させた。昭和48年にお辞めになるときに、「私は、量的にこの町を大きく発展させてきた、だけど、本当に住みやすい町は、その量的な発展の上に質的な発展を遂げた町なんだ」ということをおっしゃって引退された。
- ・これまでは、行政に要望してお任せしていればよかったが、これからはお任せばかりしていく時代ではない。自分たちの手で自分たちの街をつくっていく。今は行政だけをあてにしている、まちづくりはできない時代になっている。先ほども自治会長さんが協働のまちづくりと、建設的な意見をとおっしゃってくださったが、地域と行政が一緒になって地域づくりをしていかなければならない。行政も一人暮らしの高齢者には電話を掛けたり、給食を届けたり、様々な取り組みを行っているが、それでも日常生活でちょっとした困りごとは、ご近所さん同士で助け合える互助の仕組みをつくっていかなければならないと思っている。
- ・例えば、コミバスの本数が少なく、地域内で移動できないという課題に対して、市がワンボックスの車と保険とガソリンを負担し、地元では運転手をやっていただけの人をカバーしてもらい、ローテーションを組んで走ってもらうことで、高齢者の買い物支援などに役立つ。
- ・例えば、ある地域では放課後児童クラブも造れないが、働く親が増えて放課後児童クラブも欲しいという中で、地元の人たちが自分たちで放課後に子供たちの面倒を見ているところもある。それに対して行政は、ガソリン代と車代と、お礼をお支払いしている。
- ・地域の課題解決のために、皆さんで取り組みたいことがあれば、是非行政に相談してほしい。
- ・そういった取り組みに対して、行政も補助金や何らかの支援はできると思っている。
- ・まちづくり支援交付金も、これまでは単年度で10万円、もしくは30万円だったものを、6年間継続した事業に交付するという形に変えてきている。6年間で180万円までみることができる。

### ■公民館長の配置について

- ・現在、六合公民館に田原係長を配置しているが、六合公民館は、六合地域の拠点であると思っている。係長を配置した理由は、地域の課題をいち早く解決できるようにするためである。
- ・是非、係長を窓口として使っていただきたい。係長は、本庁との連絡調整を行い、課題解決に向けて動くといったかたちになる。
- ・これからのまちづくりは地域主体というか、地域の皆様と行政が協力してやっついていかないと住みやすいまちにはならないと思っている。
- ・そのためにも、地域の拠点に地域と行政が連携するためのつなぎ役として係長を配置した。六合公民館は、六合地域の生涯学習の場や自治会活動、コミュニティ活動の拠点であると思っているが、これからは市役所機能を持たせた出先機関として、皆さんが相談しやすいように、又より地域と行政の間を縮めていっしょにまちづくりをするために配置しているのでご理解いただきたい。

### ■六合地域の基盤整備等について

- ・六合駅南口について、トイレについては今年度建替えていく方針。また、ロータリーについても今後整備を行いたい。例えば、タクシーをロータリーの真ん中で待てるようにすることで、送迎の一般車両が今のタクシーの待つ位置で送迎できる。これに加えて、花壇の使い方なども検討して、複数年掛けて整備をしていきたい。
- ・岸元島田線の改修事業、東光寺谷川周辺の道路改良事業を行っている。また、東町御請線については、今年度が整備の最終年度となっている。10億円程度、国の補助が足りないなどの課題もあったが、要望活動によって幾分国の補助も確保できる中で、平成28年度に完成させる。この道路によって、六合地域の渋滞の緩和が期待されるし、六合地域がますます発展するために今年度中に終了させる。
- ・六合公民館の多目的室の天井や非構造部材（電球など）の耐震化については、今年度中に対応して、利用者の安全を確保していく。

### ■消防の広域化について

- ・4月から静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町の3市2町が静岡市消防局として再編された。
- ・静岡市になって心配される方もいると思うが、今までどおり災害時には首長の指揮、命令に従います。
- ・広域化のメリットは、火災などで六合出張所が出払っていても、別の部署間、さらには静岡市からも応援により広域で消防活動や救急活動に連携して取り組めるようになった。さらに、航空隊や水難救助隊などの特殊部隊も出動の要請なしで出動することから、迅速な対応が可能となっている。

### ■「稼ぐ力」について

- ・国道473号と新東名が交差するところに「にぎわい交流拠点」をつくる計画。これは、島田市が中心となって、JA大井川、NEXCO中日本、大井川鐵道の4者が連携してにぎわい交流拠点を造っていこうということで、島田市は新東名の下を、国から占用許可をいただいて、1,000台弱くらいの規模で、富士

山静岡空港のような無料駐車場をつくりたいと思っている。そこに車を置いて、奥大井あるいは島田市内に人が回遊する流れをつくりたい。JAについては、農産品のマルシェ、魚のマルシェ、レストラン、物品販売、カフェ等をつくりたい。大井川鐵道については、そこに新駅をつくって、SLを見ながらお茶を飲めるような場所をつくりたい。そこからSLに乗れるような基地にしていきたい。

- ・なぜ、ここに交流拠点をつくるのかというと、川根筋に誘客を考えた場合には、観光バスの走行距離 500 km という壁がある。首都圏から往復の距離にして 500 km が島田金谷インターチェンジ付近になる。(観光バスの走行距離が 500 km を超えると運転手をもう一人追加しなければならなくなり、経費も掛かるため、観光ルートとして敬遠されてしまう。)

- ・新東名高速道路島田金谷 IC 周辺の 84ha を内陸フロンティアとして指定した。牛尾山も含め、全てを工業団地にしていくことは難しいが、今、農振除外と受益地の除外に懸命であるが、目途が立ってきており、進出したい企業とのマッチングの話し合いも行ってきている。また、ここに進出したい企業がどのくらいあるのかを調査をかけて、要望のある企業の現地説明会を行ったり、税制優遇措置、補助金等の制度の説明などの売り込みに力を入れている。

- ・この地域は、大井川の伏流水による良質な水が豊富である。新東名の沿線ではこの地域ほど可能性を秘めた地域はない。新たな産業構造を生み出せる可能性がある。

- ・金谷中学校跡地に、5.5ha の土地がある。空港から近く、お茶の郷からも歩いて行ける。ここについて、民間の力(マーケットサウンディング)を活用して、大規模開発ができないか検討しており、出てきたい企業を拾い集めているところ。今年度事業コンペまでもっていききたい。

#### ■蓬萊橋周辺整備等について

- ・蓬萊橋は年間 12 万人余のお客様がみえる。

- ・蓬萊橋の周辺は河川敷で国土交通省の所管であり、なかなか物を建てることができなかった。

- ・規制緩和や、ずっとお願いしてきたこともあって、物を建てるでも良いという許可をいただいた。ミズベリングという協議会をつくり、答申をいただいた上で、来年の新茶の時期に間に合うように、お休み処と物品販売する場所を造りたいと思っている。

- ・同時に、幕臣 800 人を率いて牧之原台地の開拓に入った中條景昭を派遣した洋装の勝海舟の銅像を、牧之原台地を望むところに建てたい。勝海舟の幕臣 800 人を励ます胸の熱くなるような手紙が、去年、千葉で発見されるなど、島田と勝海舟のつながりが、子ども達の誇りになるよう教育もしていきたいし、観光の名所にもしていきたい。

- ・最初は、左岸側の番小屋の近くから来年の春を目処に整備を始めていきたい。

- ・実は、全国で川渡しの遺跡(川越しの宿場町)が残っているのは島田市だけ。川越しの歴史や文化を後に伝えていけるような施設を整備していくことで、これも島田の大きな魅力となる。

- ・島田市には温泉もあり、川根町にはパラグライダーの基地も整備していく。こうした整備した点を繋げ、ここにしかない観光をつくり、交流人口を増やし、更にお金を落とさせていただくようなしくみをつくっていききたい。

### ■産業支援センター（おびサポ）について

- ・年間1,200件の相談を想定しているが、7月末で1,030件を超える相談件数がある。
- ・販路拡大については、市も補助金を用意している。
- ・起業創業の相談は、46件（7月1か月だけで）
- ・経営支援、商品のPR方法、新商品の開発事業などの相談もある。他市町（藤枝、焼津、吉田、牧之原）からも相談者が来ている。
- ・島田信用金庫の支店長クラスだった方を相談員として配置している。市の職員は課長補佐クラスを配置し、民間からセンター長を招き、常時4人以上で相談に応じている。

### ■待機児童対策について

- ・人口が増えている地域。六合、初倉地域のみ。
- ・六合地域は延び代がある。六合東小学校は、教室が足りないということで増設をした記憶がある。
- ・保育所と放課後児童クラブの待機児童の課題がある。
- ・保育所の待機児童、市内で3歳以上の待機児童は0人。0.1.2歳が24人。3人に一人の保育士が必要。
- ・六合地域に新たな保育園を検討している。候補地は旧六合コミュニティセンター跡地の一部分で。
- ・道路が狭いなどの課題にもお応えしていくので地元の方のご理解をいただきたい。島田に來れば保育園に入れる。六合に住めば保育園に入れるといった地域の魅力の一つにもなる。藤枝よりも子育て支援は充実していると思っている。
- ・放課後児童クラブも待機児童の課題がある。定員を増やしていかなくてはならない状況。ちょうどこの頃は昨年3人だったが、今年は125人と増えている。
- ・六合公民館の中と六小（地域連携室）の2箇所に設置しているが、それでもまだ足りない状況。教育施設（空き教室）も使うという強い権限でやってきている。今は、高齢者施設でも放課後児童クラブをお願いしている。
- ・もう一つの大きな課題は、施設を増やしても支援員がいないこと。現在時給は900円から950円をお願いしている。
- ・週一日でもお願いしたい。資格は要らないので、支援員をやってもいいよという方は、子育て応援課に連絡をお願いしたい。

### ■熊本地震の教訓について

- ・6月の補正で耐震補強の補助金を上乗せした。県内の23市の中でもトップクラスの補助金となる。今までも補助があったが、65歳以上で80万円、65歳未満の方で70万円に補助上限をあげた。
- ・耐震補強は100万円～150万円かかるが、ほぼ全額を補助できる耐震シェルターや耐震ベッドの予算を計上した。

- ・耐震シェルターは、ベッド二つ分とあとは食料品を置けるくらいの大きさのもので、四畳半の中に入れてもらうような大きさで大体 30 万円前後。家の畳の下の補強など多少必要かもしれないが、大きな負担なくほぼ全額に近いお金で屋内シェルターを設置できる。もう一つは耐震ベッド。ベッドの四隅に柱と天井をつけて、寝ている間はとにかく家がつぶれても人は大丈夫だというもの、これは 20 万円の補助をする。約 1,200 万円程度の予算規模になるが、すでに、補助の申請も数件いただいております、屋内シェルターと耐震ベッドは、8 月末までプラザおおりの西側に現物を展示しているのでご覧いただきたい。
- ・補助要件は、S56 年以前の耐震性のない建物で、年齢の制限は無い。

### ③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■道悦島東交差点に右折専用レーンの増設</p> <p>道悦島交差点（市道八島道線と県道島田岡部線との交差点部）において、市道八島道線から南進し、前方に右折（島田方面）する車があると道幅が狭いため後続車がつかえてしまい、1 回の信号で進むことが出来ない。そのため慢性的な渋滞が続いている。</p> <p>是非安全のためにも右折専用レーンの増設をお願いします。</p>	<p>●南北の導線が東西にずれた変則的な交差点で市道八島道線の幅員も狭いことから、市としても改良が必要な交差点及び市道であるという認識です。JA大井川六合支店側に拡幅して右折レーンを入れ、県道島田大井川線に出来るだけ正対させるといった改良により解消できるものと思われませんが、市の道路事業全体の中では近々での事業着手は難しい状況です。中期的な視野の中で検討させてください。</p> <p>現在、六合地域の道路改良工事としては、東町御請線整備事業、岸元島田線及び細島中央道線の舗装改良事業が完了（今後 1～2 年）し、今後整備を進める予定の道悦旭町線の歩道整備や谷口道線の拡幅事業などに目処がついた段階、または、県で実施している東光寺谷川の整備事業により八島橋の架け替えが必要となり、市道八島道線の拡幅が事業化される段階など、時期は不確定ではありますが、中期的な事業展開を考える中では優先度が高い箇所であるという認識です。</p> <p>国は、医療費に 1 兆円ずつ増えている。公共事業費の補助金も付かない状況。国も県も土木費の縮減を図っている。国は平成 12 年頃には、全国の自治体に道路をつくる補助金だけで 15 兆円以上のお金を出してくれていた。これが、26 年度も 27 年度も当初予算に計上されている予算は 5 兆 1 千万円であり、3 分の 1 となっている。県も、35 の市町に道路をつくるた</p>

		<p>めの補助金として、同じ頃 165 億円を超えるお金を出してくれていた。しかし、去年も一昨年も当初予算のベースで 46 億円ほどと、こちらも 3 分の 1 となっている。</p> <p>また、島田市の道路延長は 1,180km、橋は 1,154 橋で、5 年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持（長寿命化）していくことがメインとなっている。新たな道路をつくるよりも長寿命化する時代となっている。</p> <p>この件についての必要性は十分に認識しているので、要望は毎年出してほしい。継続しての要望が事業着手への第一歩だと思っている。</p>
1-2	<p>信号機を時差式にして対応できないか。</p>	<p>●警察も予算がなく、新しい信号機の新設要望についても、たくさんいただいているが、去年は 2 箇所しか設置されなかった状況である。それでも欲しいとなると、あまり使われていない手押し式信号機を移設するという話を聞いてびっくりした。その位予算が厳しい状況。</p> <p>警察の所管のことは警察に要望をしているが行政に帰ってこない。事後報告がないことが状況である。定期的に警察もやってくれていると思う。</p> <p>本件については、現在ある信号機を時差式に変えることなので、警察にお話させていただく。</p>
2	<p>■東光寺谷川の河床の土砂の撤去</p> <p>町内を流れる東光寺谷川の河床が土砂の堆積により積もり、竹や草が生い茂り川幅が非常に狭くなっております。台風や集中豪雨により堤防の決壊、あるいは堤防を乗り越える恐れがあります。</p> <p>その場合、町内では床上浸水等の被害が予想され、早急な対策を望みます。特に大日橋と竜江院橋の間が顕著になっております。</p> <p>追記) 先日、組長経由で要望を出したところ、2,3年前に市に要望が出ているとの回答がありました。又、現在下流側から進められている拡幅工事との関係でそのままになっているのかもしれませんが。</p>	<p>●東光寺谷川に関する、河川の改修、土手の嵩上げ、護岸の修繕、土砂の浚渫等については、以前から地元自治会の要望書が提出されており、河川を管理している静岡県島田土木事務所に対応をお願いし、その都度小規模な護岸修繕、土手の嵩上げについて対応していただいております。この浚渫に掛かる県の予算は、年間600万円から800万円と限られており、優先順位を立てて実施している状況と聞いている。県の予算は河川管理費として全体の中に含まれているため、浚渫という予算項目を別立てするように要望しているところ。河川改修の要望は挙げていくが、地元の方々からの要望もお願いしたい。</p> <p>また、東光寺谷川の河川改修事業につきましては、継続して実施してい</p>

		<p>く。現在、島田市岸町の竜江院橋付近まで改修が進められてきており、ご指摘の箇所についても引き続き河川整備が進められていく予定と聞いております。何年にと言うことがいえないことは申し訳ないが必ずやっけて行く。</p>
3	<p>■若者が住みやすい環境づくり</p> <p>少子高齢化に伴う課題のうち、市でも様々な施策がなされていることは認識しているが、若者の島田市への移住促進についてどう考えているか。島田市に住んでいた子供が親になって島田市に戻って来てもらいたい、そのことはどうか。</p> <p>また、島田市に働ける場所があれば良いのだが、働けない場合、他市へ通う場合の交通施設（インフラ）の整備はどのように考えているか。</p>	<p>●島田市では、人口減少や少子化対策などの課題解決のために、首都圏で生活する30代から40代の子育て世代をターゲットに絞込み、移住・定住政策を進めています。</p> <p>いろいろな施策を実施しているが、今年が目玉として、若者に帰ってきてもらうきっかけづくりとして、今年度、1月に今年30歳になる方を集めて同窓会を開催します。候補者1,100人余全員に声を掛けて実施する。この企画は、同窓生による情報交換の場、未婚の男女の出会いの場を提供するほか、この同窓会を機会に島田市の良さを再認識していただき、市外定住者が島田市への移住・定住を考えていただくきっかけづくりにしたいと考えています。</p> <p>現在、川根地区に派遣する地域おこし協力隊が、移住者目線で作成したWebサイト「住んでごしまだ」を立ち上げすぐ評判が良い。また、東京の有楽町に移住定住センター（静岡県ブース）が設置されているが、島田市のWebサイトを見たを訪れてくれる方も多いと聞いている。移住定住センターでは、島田市に住むということだけでなく、島田で働くといった相談にも乗っている。</p> <p>川根地区限定とはなりますが、1泊2日の移住体験ツアーを開催し、地域イベントやコミュニティ活動、あるいは各種体験を通して、地域住民との交流を重ね、地域性や人間性を知っていただき、スムーズに移住できるような取り組みも実施しております。併せて市では他地域から移住してくれる方には120万円の補助も実施している。</p> <p>そのほか、先程紹介したWebサイト「住んでごしまだ」は、移住者の目線で「島田を知る」、「島田に住む」、「島田で働く」、「島田暮らし」に関する</p>

		<p>情報を紹介しております。志太3市で就職ガイダンスも行っている。</p> <p>島田は、独り者の若者が少なく、結婚している若者に選ばれる街。今後も、「島田での暮らしやすさ」や「子育てのしやすさ」など、先輩移住者、特に若い世代の移住者の生の声をWebサイトなどで紹介し、移住定住政策を推進してまいりたいと考えております。</p>
4-1	<p>■鍋島地区大井川河川にある産業廃棄物</p> <p>大井川川口変電所上にある産業廃棄物処理場ですが、河川に処理場を作るのはなぜか。なぜ島田市は許可したのか。将来的には人体に影響が出て来るのでは。</p> <p>静岡の業者だったら、安倍川の上流に作ればいいのでは。静岡では許可が下りないのではないかと思われるが。</p> <p>この処理場は、市民の全員が知っているのか。何を埋めているのか。大雨によって河川に流出しないのか懸念を持っている。</p>	<p>●この最終処分場の許可に当たっては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規定に基づき、静岡県が許可しており、市が許可しているものではない。しかしながら、島田市に全然関係がないというわけではなく、処理された廃棄物や流されている水の水質を監視している。今後も大井川の環境への負荷等が懸念されることから引き続き監視していく。</p> <p>処分場の許認可については、排水するためには様々な規定があつて、県の認可を受けており、更に市でも水質を監視しており問題はないと思っている。</p> <p>この処分場の建設については、県の許認可となっているため、作る前に島田に相談があつたわけではないが、大井川の水を飲み水として使っている以上、住民から心配が寄せられているということも併せて、今後も適切な管理をしていくように改めて話をしていく。</p>
4-2	<p>■市は水質検査や監視の内容を把握した上で回答しているのか。</p> <p>また、水質の検査結果のデータは開示できるのか。</p>	<p>※車座トーク終了後に再質問を受けたので、検討事項とする。</p> <p>【検討事項1】</p>
5	<p>■小河川に堆積した土砂の浚渫・水害対策</p> <p>岸町の大日山前の小河川（普通河川）には、大雨時に大量の土砂が山側より流入し川底に堆積している。本来ならば堰等を設け土砂の流入を防ぐべきであるが、暫定的対応としては定期的に土砂の浚渫を行う必要がある。水害が予想されるまで放置すれば、その堆積土砂量は膨大となり浚渫費用が増し且つ時間も要す。限られた予算内で費用対効果を計れば最低でも2年毎の浚渫が望まれる。又、この領域で土砂が堆積することで、より下流域への土砂流出を防いでいると思われ、</p>	<p>●自治会の皆様には、毎年市内一斉川ざらい等の環境美化活動にご協力いただきありがとうございます。作業をしていただく皆さんも高齢化してきていて、ご苦勞されている状況だと思っています。水路の土砂除去についてですが、自治会の皆様には人力での作業が可能な範囲で引き続き、ご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>地元ではとても対応しきれないといった場合には、市へ連絡をお願いします。現場を確認し、必要であれば重機を入れて対応させていただきます。</p>

	<p>浚渫は重要課題である。「自身で行える事は自身で」が自治の基本ではあるが、この小河川の土砂除去作業を11組単独（又は自治会内）で行うことは困難であり、本来市の責任で対応すべきと判断する。</p>	
<p>6</p>	<p>■農地の利用について</p> <p>昨年になるが、総合病院にお勤めしていた整形外科のお医者さまが、岸町が気に入ってぜひ開業したいという話があった。しかし、農業委員会から農振地域だからという一言で白紙に戻ってしまった。そのお医者さまは島田市に失望したと思う。また、市も税収を失った。農業委員会は無下にするだけでなく、検討の余地を残してもらいたい。</p>	<p>●私の住む近くの歯医者さんが自分の自宅の隣の田んぼに歯医者建てたいが、どうして出来ないのかという話があって、同じような事案であるなと思いつつ聞いていた。</p> <p>現在、農業振興地域で青地を白地に変えることは大変困難であることは皆さんご承知のことと思われる。最近、農業を行っている方の高齢化や後継者がいないことで耕作放棄地が増えている。白地に変えられるものなら白地にして、子供たちの家を建てることや他へ売りたいと思っている方が大勢おられる状況。</p> <p>しかし、昔の時代に土地に農振をかけるために国費等を投入して、水路などを整備し農業の振興をしてきた。そこへ、今度は後継者不足でといって白地にしたいといっても、中々出来ないのが現実。特に大井川土地改良区のエリアでは、直ぐにお金を返しても8年間には変えられないといった所もあるのが事実。</p> <p>そうはいっても、優良農地と傾斜地の畑では違うとは思いますが、やはり優良農地は優良農地としてしっかりと残し、白地に戻す所は戻すといったことも方針の一つだと思う。</p> <p>しかしながら、そのようなことを無秩序に進めてしまうと今度は農業が崩壊してしまう恐れから、国は法律を変える考えを持っていないのが現状。</p> <p>従いまして、農業振興地域の青地農地につきましては、個人では自由に転用することができない。周辺に宅地が出来て農地が囲まれてしまい、一段でない農地であるという証明がないと難しい。</p> <p>耕作が困難になった場合は、農業委員会で、農地の貸借や売買の相談業務を行っていますのでご相談ください。</p> <p>その先生にも申し訳ないと思うが、対応の仕方はもう一度農業委員会に</p>

		<p>話をする。</p> <p>余談だが、藤枝がどんどん開発されるのは、昔は島田が農振をかけてどんどん補助金をかけていろんな整備していったが、藤枝はそれが出来なかった。島田がうらやましかった。現在は、雑種地で農振もかけられなかった土地にどんどん建物等が出来ているのが現実。まさに大きな時代のうねりの中での話。</p>
7-1	<p>■少子化・高齢者対策</p> <p>先ほど、市長から少子化対策の話をお聞き、市では様々な対策をされていることがわかりました。</p> <p>高齢者対策についても、少しはわかっているのですが、この機会にお聞かせください。</p>	<p>●これからは健康で長生きしていくことの対策が一番重要。静岡県は世界一健康長寿のまちです。(実際は2番目) その中で島田市も健康な高齢者の割合が高いまちです。これを維持していくために、市では、高齢者ジムトレーニングの機器を導入したり、居場所づくりをしたり、ふれあい事業をしたり、高齢者の皆さんが出掛ける場所をつくるということを実施している。また、介護にならないための支援としては、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び生活支援が包括的に提供できる「地域包括ケアシステム」といいますが、これを昨年度から新総合事業として県内でも先駆的に始めております。この効果は高く、要介護や要支援の数が減っている。今後も継続して続けて行きたい。</p>
7-2	<p>■家庭への緑茶を飲む啓蒙活動</p> <p>市の広報課が啓蒙活動をしているのは存じておりますが、島田市はどこへ行っても緑茶が出るよという街でありたいと思いますが、このことについてどのようなお考えがありますか。</p>	<p>※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項。【検討事項2】</p>
7-3	<p>■住宅介護の支援状況</p> <p>介護殺人ということが、6年間に368人起きている。約2週間に1人という割合となり、介護疲れで殺人が起こっている。</p> <p>また、介護中の4人に1人が介護している人を殺してしまいたいと思ったということがあるそうです。</p> <p>在宅介護では、このような状況があるようだが、これに対して市は</p>	<p>●先ほど、介護殺人というお話があったが、島田市も他人事ではなくて、<b>市内でも高齢者虐待の相談件数が年間で20から30件ある。</b>この課題もあって、来年度に向けてシェルターを市が準備しなければならないということを検討している。ショートステイやデイケアといった、介護している人もゆとりを持てるようなやり方があるのだが、その方法、制度を知らない方やいるのが現状。今後も「地域包括ケアシステム」(7-1で説明)活</p>

	<p>どのような援助体制をされているのか伺いたい。</p>	<p>用してもらえよう広くPRしていく。</p> <p>また、一人暮らしの高齢者の方には<b>市が契約した警備会社</b>から週1回電話連絡し安否確認を行っている。<b>(緊急通報システム)</b> ※事前登録制（登録者が500人前後）</p> <p>同様に、<b>安否確認も行う目的で高齢者世帯へ食事を宅配しているサービス（配食サービス）</b>においては、連絡がつかなければ30分以内に<b>市の職員が必ず駆けつける</b>というシステムも持っている。</p>
7-4	<p>■身体障がい者対策</p> <p>身体障がい者の方々のため、身体障がい者と健常者との隔たりがなく、学校でも地域でも心より溶け込めるような対策は取られているのでしょうか。</p>	<p>●過日の相模原市では本当に痛ましい事件だった。様々な障がい（身体・視覚・聴覚・知的など）持った方がおられるが、当市にはその種類を超えて一つになる障がい者団体がある。これが大きな力となっている。自分たちが災害時にどのようにSOSを発信していったらいいかということもやっている。</p> <p>障がいのある方々が、住み慣れたまちにずっと暮らして行けるまちをつくって行きたいというのが市の方針。そのために、地域の皆さんに様々なお願いや協力をいただかなくてはならないが、ずっと昔から知っている人だということが分け隔てなくお付き合いする一番大事なことではないかと思っている。</p>
7-5	<p>■老人ホームの入居費</p> <p>特別養護老人ホームと一般の老人ホームでは入居維持費に違いがあります。島田市内でも特養の入居を待っておられる方が20人から30人いて、年金生活者としては、せめて年金の金額位で入居出来ることが望ましいのですが、その体制について説明願いたいです。</p> <p>入居費 7万～13万円（特別養護老人ホーム） 20万円を越える（老人ホーム）</p>	<p>●国は毎年医療費が1兆円以上増えていることから、医療費抑制のため、2025年を目途に医療制度改革を行う方針で、施設（病院を含む）から在宅へという流れを考えている。市民病院のような救急病院は、平均で14日の入院日数であるが、2025年には9日以上入院日数になると医療報酬点数が減じられる仕組みとしている。</p> <p>島田はこれに対応するため、この4月から24時間訪問看護ステーションをはじめている。8人体制。もし、夜中に具合が悪くなっても、かかりつけの医師の指示書があれば、ナースが指示書に従って医療行為ができ、安心して在宅で医療が受けられるというもの。</p>

		<p>(回答補足)</p> <p>介護保険施設は、提供する介護サービスの形態によって3つのタイプに分かれています。</p> <p>1つめは、食事や入浴などの日常生活において、常に介護を必要とする方が対象となる「特別養護老人ホーム」。</p> <p>2つめは、介護や看護、リハビリなどにより、家庭への復帰を目指す方を対象とした「介護老人保健施設」。</p> <p>3つめは、病状は安定しているものの、長期にわたり療養が必要な方を対象とする「介護療養型医療施設」。</p> <p>これらの施設の入所にあたり支払う月額料金は、利用者の介護度や所得額、施設の種類、部屋のタイプなどにより大きく異なります。例えば、利用者の介護度が介護3で介護保険の負担割合を1割とした場合は、およそ12万円前後となります。また、所得の低い方には軽減措置もあるため、半分程度になることもあります。</p> <p>一般的な老人ホームとしては、介護度がなくても入居できる「住宅型有料老人ホーム」などがあり、入居者のニーズに併せてサービスを提供するため月額料金にも差があります。また、入所に際して「初期費用」が掛かることもあり、市内の施設の例では、初期費用が30万円、月額料金が20万円前後となっています。</p> <p>このほか、家庭での生活が困難になった認知症の高齢者が少人数で暮らす「グループホーム」などもあります。</p> <p>このように、提供する医療や介護の内容などによって多くの種類の施設があること、そして、利用者の状態なども多様であることから、利用料金もさまざまであるのが現状です。</p>
7-6	<p>■市民病院の建設状況</p> <p>市民病院の建設状況と新病院の内情はどのようなものなのか。現在どのような状況だという程度でよいのでお伺いしたい。</p>	<p>●現在、基本設計を実施している。造る場所は、今の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかと思われるかもしれないが、今のところはT字型のような形に</p>

		<p>なる予定としているが、使いやすい形にしていきたい。診療科目数は現在とほぼ同じ。病床数を445床で7～8階建てを想定している。今年の終わりまでにはきちっとした方針を示したい。屋上にはヘリポートを設置して、真下には手術室や集中治療室を完備し、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。</p> <p>今ある病院の中で残す建物は、救急車が入る救急病棟、北側にある検診センターの2つを考えている。救急病棟については、新しい病院内に作ると思うので、今の計画では透析する患者さんが増えている中で、透析センターにしたいというようなお話もあるというように病院の方から聞いている。</p> <p>建設費用は、今のところの概算で247億円。病院に入る道路も付け替えて、朝夕の渋滞となっている状況もあることから、右折レーンを付けた道路も整備していく。</p> <p>地盤について心配をいただいているが、ボーリング調査もしているし、岩盤までの距離はあるものの、その間の土質は粘土質である。液状化は砂と水が混ざって起こる。県の第四次被害想定でも液状化しにくい場所になっている。今の最新技術で岩盤まで杭を打てば建設には何も問題がないと思う。</p> <p>来年度、詳細設計を実施し、30年度から建設に入っていく。32年度末を開院目途としている。新しい病院が完成、数日間で引越し、新たな病院が開院してから古い病院を取り壊します。</p>
--	--	--

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
4-2 検討事項 1	※車座トーク終了後に再質問を受けたので、検討事項とする。 【検討事項 1】	<p>■島田市では当該事業者と協定を締結しており、協定書の定めにより、受け入れた廃棄物の種類と数量、及び排水する処理水、近接地の地下水の水質について月ごと報告を受けており、県より許可を受けた品目のみ受け入れていること、排水・地下水の水質については問題なく、規制値内であることを確認しております。</p> <p>水質の検査結果については法の定めによるものではなく、協定に基づく報告であることから、その開示については事業者の承諾を得る必要があるものと考えますのでその点ご了承願います。</p>
7-2 検討事項 2	※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項。【検討事項 2】	<p>■本市のお茶に関する取組みは「第2次島田市食育進計画」にも記載があります。</p>

		<p>「第2次島田市食育推進計画」には、自然とつながる食育という基本方針があり、具体的な施策としましては、お茶を飲む習慣の推進も含まれています。</p> <p>この内容としましては、「市内保育園、小学校などにお茶を贈呈し、給食時に市内の美味しいお茶を飲んでもらい、お茶を飲む習慣を推進すること」や、「市民が、島田市の主要農産物であるお茶についての理解を深められるよう、啓発していくこと」を挙げており、それぞれ取組みが行なわれています。</p> <p>健康づくり課においては、地場産物を活用した食育教室の開催の際、お茶も使用する「具だくさん島田汁」の調理、合わせてお茶を飲むことなどを行っています。</p> <p>また、消費者の嗜好の変化により、リーフ茶の消費が減少している中、島田市茶業振興協会では、小中学校でのお茶の淹れ方教室や、小学生を対象としたT-1グランプリを開催し、参加者などに急須を贈呈しております。また、島田市役所へ婚姻届を提出し、市内へ在住する新婚カップルへ、茶器の贈呈も行っております。</p> <p>このような事業をきっかけに、各家庭において、急須で淹れるお茶の良さを知ってもらい、リーフ茶を飲む習慣をつけてくれることを望んでおります。</p> <p>また、島田市では、昨年度シティプロモーションとして発表した「島田市緑茶化計画」の名の下に、あらゆる方法で「緑茶のまち＝島田市」を国内外へアピールしております。</p> <p>市民の皆様も、家庭や地域などにおいて、リーフ茶が広く普及・拡大するよう、ご協力をよろしくお願いいたします。</p>
--	--	--